

『海老原商店とコンテンポラリーアート』2022年9月23日[土]@海老原商店



▲現代音楽で即興のセッション

繊細な音を奏でる黒田鈴尊氏の尺八と、指先にまで魂のこもった動きの青木尚哉氏のダンス。時間も空間をも飛び越えたような不思議な感覚を覚えました。

▶結をモットーに人の輪を紡ぐ コミュニティに溶け込み、古民家の良さを大切にしながら、日々アートの発信を続ける海老原商店。前回の東京ビエンナーレでも“着がえる家”のパフォーマンスが注目を浴びました。新たな出会いを求めてこれからも歴史を刻んでいきます。

▶五感で感じる黙覧ツアーからスタート 情報に溢れる昨今だからこそ、まっさらな感覚で海老原商店を感じられるよう、思い思いの時間を過ごしました。雪見窓から差し込む光、たたみの香り、急な階段の手触り…十分に味わったあと、店主の海老原義也氏の案内で説明を聞きながら巡りました。

▶尺八とダンスの競演—古典から現代音楽まで 古典の曲目『奥州薩慈』からシャンソンの名曲『聞かせてよ愛の言葉を』では、重厚でありながら時として思いがけず



▲現存する数少ない看板建築



▲熱心に質問をする参加者の皆様



▲2階客席。迫力がありました

column

ちよ／っと探訪⑤

大隈重信侯 雉子橋邸跡

OKUMA Shigenobu / Kijibashi

東京都千代田区
九段南1-2



▲千代田稲門会(有志)メンバー

OG会である千代田稲門会と大学が建立した。「人生125歳説」を唱えた大隈ならではの節目の年といえよう。地元佐賀の御影石を使用、大隈講堂の時計台を模すなど、細部の意匠にもこだわりが詰まっている。

1876(明治9)年から1884(明治17)年までこの地に居を構えていた大隈は、明治14年の政変、東京専門学校(早稲田大学の前身)の開校といった激動の時代をここで過ごした。政権の中枢から追放された大隈の陰の側面、学問を以って日本を変えんと志した大隈の光の側面がこの地から紡がれているのだ。

大隈が没して100年を迎えた現在、千代田稲門会の鈴木隆幸氏は「大きな変革期に直面した今こそ、大隈さんのおこなったことを見つめ直す必要があるのではないか」と語った。欧米列強に屈せず近代化を目指した明治、コロナ禍に適応せんと変化する努力を続ける現代。戦う相手は違えど、そこには確かに大隈の意志が受け継がれているように思えてならなかった。

——『ちよっと探訪』では、知人ぞ知るちよだの魅力に迫ります。第5回は没後100年を迎えた大隈重信にまつわる、千代田区役所前に建つ石碑にクローズアップします。

整然としたビルが続くオフィス街の一角、千代田区役所の前に広がる緑豊かなオープンスペースにそれはひっそりと佇んでいる。「大隈重信侯 雉子橋邸跡」と刻まれたその石碑は、かつて大隈重信がこの地で近代国家の礎を作ろうと想いを馳せたことを現代に伝えている。2007年、早稲

田大学の創立125周年を記念して、千代田区のOB OG会である千代田稲門会と大学が建立した。「人生125歳説」を唱えた大隈ならではの節目の年といえよう。地元佐賀の御影石を使用、大隈講堂の時計台を模すなど、細部の意匠にも



▲毎年7月に記念碑の清掃を行う

生涯学習ダイバーシティ

今年度のDanDanのテーマは「生涯学習ダイバーシティ」。個人それぞれの多様性が認められるようになってきた令和の時代。学びのかたちに目を向けて見ると、そこにもまた色とりどりの多様性が存在しています。では“多様性”とはどのようなかたちをしていて、どのように理解をすれば良いのでしょうか？



注文を受けてからハンドドリップで
コーヒーを入れるスタッフ▶

Vol.2

Learn Diversity

『「生涯学習」とは、一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校 教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア

活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習の意味で用いられます。』——引用:令和2年度 文部科学白書本文(2021.7.20時点)

今号は千代田区神田錦町『ソーシャルグッドロースターズ千代田』へ伺いました。2020グッドデザイン賞、IAUD国際デザイン賞2021金賞など各方面で評価されているこの施設は、スペシャルティコーヒーを扱う洗練されたコーヒースタンドであり、さまざまな事情や障がいによって一般企業での就労が難しい方が利用する就労継続支援B型の作業所でもあります。福祉施設のあり方や働き方を通して、多様性の一つを学んでいきます。

もくじ

【特集】生涯学習ダイバーシティ | ソーシャルグッドロースターズ千代田

【L.L.News】ちよだまち魅力探訪アフターレポート 【コラム】ちよっと探訪⑤ | 大隈重信侯 雉子橋邸跡



編集後記

DanDan編集室 小野田

今号の3つの記事を俯瞰してみると、“つながり紡いでいく”という共通点が見えます。ソーシャルグッドロースターズ千代田は、まさにあたたかな人と人とのつながりの中で育まれ、多種多様な出会いを紡いでいます。海老原商店も困難とさえ思える幾重もの時代を紡ぎ、人の輪をつないでいるから、現在まで存在しているのでしょう。そんな空間だからこそ、時にざわついた心を鎮め、安心感をもたらしてくれるような気がします。千代田稲門会もまた、確固たる人のつながりの上に成り立ち、大隈重信侯の想いを紡いでいます。九段生涯学習館の職員としても、ぜひこれからも大切にしていきたいと感じています。



Interview

坂野 拓海氏

【一般社団法人ビーンズ代表】

——まずはこちらの店舗について教えてください。

『ソーシャルグッドロースターズ千代田』は障がい者ヘルパーの事業を行う「一般社団法人ビーンズ」（以下、「ビーンズ」）と千代田区との協同事業として2018年7月にオープンした、就労継続支援B型の作業所です。カフェを併設していて、スタッフ（利用者）はコーヒー豆の選別や、注文を受けてのハンドドリップ、接客などコーヒーに関するあらゆる仕事を行います。

例えばコーヒー豆を選別するハンドソーティングでは形や大きさが不揃いだったり、カビや不純物を含んでいたりする豆を手作業で取り除いています。根気のいる作業ですが、この作業を丁寧に行うことで99%トランスペアレントな（透き通った）クラフトドコーヒーを実現することができます。そして焙煎やブレンドした豆の味や香りの仕上がりをチェックするカップングという工程は、通常のカフェでは一人の職人が行うことが多いですが、ここでは複数人で行い、誰が飲んでも美味しいと思えるコーヒーになるように試行錯誤しています。

——スペシャルティコーヒーの豆の品質をさらに上げる作業をしているのですね。福祉施設の作業所として、なぜこのようなカフェをオープンすることになったのでしょうか。

「ビーンズ」ではさまざまな障がい者支援を展開しています。家具屋や花屋の福祉施設をはじめ、居住支援や家族支援、また障がいの有無にかかわらず里親支援もおこなっています。一般企業でも障がい者雇用制度がありますが、離職率は50%以上と言われている、業務内容が限定されることでやりがいを感じられなかったり、他の社員と対等に扱われなかったりと、なかなか居場所をつくるのができないのが現状です。そこで『ソーシャルグッドロースターズ』では人とかわかること、作業に専門性があること、やりたい仕事ができることを意識しています。飲食店というのは人と人との良い接点や交流の機会になり、またコーヒーという専門的な分野の知識や技術を磨くことで自信や誇りも得られます。障がい者イコール弱い存在、と考えられがちですが、ここではフェアトレードの豆を取り扱って一緒に社会貢献をしているため、ただ利用者が“支援される”福祉施設で終わらせることなくスタッフとして“支援する”側にもなります。

——提供する商品の質の良さに加えて社会貢献ができること、またこのお洒落な空間も、誰もがここで働きたいと感じる理由ですね。洗練されたコーヒースタンドに仕上げた意図を教えてください。

スタッフが別の場所でコーヒーの仕事をしたいと思ったときに、どこでも働くことができるように働く人の価値を上げることを大事にしています。施設利用者であるスタッフも社員を含めた同じピラミッド内でキャリア形成をしますし、また対外的な信頼を得るために豆や器具にも妥協はできません。焙煎機はロースターの世界大会で使用する「GIESEN」で、一般的なものより高価ですがスタッフの夢や希望の

ために必要だと思い購入いたしました。ほかにもコーヒーのドリップバッグのパッケージはデザイナーに依頼をして味のイメージが伝わるデザインに、スタッフも着用しているエプロンやキャップはオーガニックコットンのデニム生地を採用し、誰でも着脱しやすいように工夫が凝らされています。障がいを持つ方の雇用を増やすということが私たちの目的であり課題でもあります。バリスタやデザイナー、千代田区も含めて、この事業に共感する人や社会のサポートで一つずつ実現することができています。

私たちがスタッフの仕事に対する姿勢を見て、「コーヒーを学びたい」「仕事を通じて成長したい」という気持ちがあれば誰でも成長し、なりたい自分になることができると実感しました。またそうして真摯に働くスタッフやお店のコンセプトに対して、お客様は素直に共感して応援してくれています。お客様とスタッフがすごく良い関係だなと思います。

——今後の展望やメッセージをお聞かせください。

千代田区の「精神障害者保健福祉手帳」の登録人数は2020年度でおよそ380名、都内の他の区と人口の割合で比較しても少ないのです。それぞれのご家族の事情もあり人数や実情は表面化しづらいかも知れませんが、そもそも障がいという言葉自体が曖昧なくくりでしかありません。恥ずかしさや引け目を感じる必要もなく、ただ何か困難があるなら手を差し伸べることができるように、とにかく多くの方に情報を届けられると嬉しいです。障がいや困難の有無にかかわらず、仕事や日々の生活で疲れたときや一息つきたいときに、まずはぜひ気軽に、コーヒーを飲みに来ていただけたらと思います。

〔取材を通して〕坂野さんへ“生涯学習”のイメージをお伺いすると「人生のなかの学びたいと思うタイミングで、いつでも誰でも質の高い知識にアクセスできる場所が社会の色々な場所にある」とのこと。図書館や大学等で得られる知識だけでなく体験や気づきも含めて、学びたい、やってみたいという思いを誰もが自由に叶えられる、そんな場所がもっと増えたらいいと改めて感じました。

Beans



▲ハンドソーティングによって仕分けされた豆

Hand Sorting



▲時間と根気のいる作業に取り組むスタッフ



ソーシャルグッドロースターズ千代田

千代田区神田錦町1-14-13

LANDPOOL KANDA TERRACE 2F

Tel.03-6811-0895 (10:00-18:00)

<https://sgroasters.jp/>



オンラインストア

EDITOR

Sakai Aika (chief)

Takano Yuta

Onoda Junko

DESIGN

Kawahara Kotaro

／ オンラインストアも要CHECK ／



▲さまざまな人に愛されるよう作られた(写真右より)『チヨダ・ブレンド』『ソーシャルグッド・ブレンド』『デカフェ』